

平成 27 年度 第 2 回 多摩六都科学館組合事業評価委員会 会議録（要旨）	
日 時	平成 27 年 12 月 6 日（日）午後 3 時 30 分から午後 6 時 15 分まで
開催場所	多摩六都科学館 2 階 201 会議室
次 第	1 開会のあいさつ 2 平成 27 年度の事業評価活動について 3 平成 28 年度の事業計画について 4 その他
出席者	小谷委員、坂本委員、柴田委員、桧森委員
欠席者	杉浦委員
決定事項	●平成 27 年度の主要事業の実施状況（報告・確認） ●平成 28 年度事業計画の概要（承認） ●次期指定管理者の選定方法（助言）
資 料	（事前配布資料） 資料 1 多摩六都科学館 事業評価報告書 （平成 26 年度～平成 28 年度（3 カ年）の中期計画における平成 26 年度の実績報告ならびに事業目標の達成度等に関する評価報告） 資料 2 平成 26 年度多摩六都科学館及び多摩六都科学館駐車場指定管理者事業報告書 資料 3 平成 26 年度事務事業報告書 資料 4 平成 28 年度多摩六都科学館及び多摩六都科学館駐車場指定管理業務事業計画書 （当日配布資料） 資料 5 平成 27 年度多摩六都科学館及び多摩六都科学館駐車場指定管理業務事業計画書 参考 1 多摩六都科学館利用者・駐車場利用台数集計表（裏面・利用料金集計表） 参考 2 多摩六都科学館組合市民モニター関係資料
特記事項	事前に欠席の連絡があった杉浦委員には、事務局が資料を送付した上で意見等をヒアリングした。
<p><b>凡例</b> 発言者の略記（長：事業評価委員会委員長、委：事業評価委員会委員、組：多摩六都科学館組合、指：指定管理者）</p> <p>1 開会のあいさつ 事務局長から、本日の審議内容等を説明した。</p> <p>2 平成 27 年度の事業評価活動について 平成 27 年度の主要事業の成果について、指定管理者（株式会社乃村工藝社）の統括マネージャー及び各リーダー、チーフ、及び組合から個々にスライドを用いて報告を行った。 指）最初に統括マネージャーから事業全体を振り返ってポイントを述べたい。</p>	

- 1 体験活動と言語活動の相互作用による学習展開（西東京市の事例）
- 2 職場体験＝中学校のキャリア教育としての取組（東久留米市の事例）
- 3 市民・利用者の価値を作ることの意義

指) 研究交流グループ・天文チームの報告

- ドーム空間そのものが実感を伴う学習の場であり、スタッフによる生解説にこだわり、解説に使う映像もすべて自作している（対前年度観覧率 10%増）
- 天体観望会を屋上で実施し、ドームに近い機動力を活かして観察の効果を上げている
- 大型映像は、友の会の試写による評価を参考に作品選定している（同観覧率 15%増）
- 交流の場づくりとして、天文クラブを継続的に運営している（24人参加）
- 新規取組も積極的に実施した（市民の朗読プラネタリウム、北欧招聘のコーラス等）
- 西東京市の下野谷遺跡が国指定となったのを機会に、プラネタリウムと考古学を結びイベントを実施した（「キトラ古墳の星空が語るもの」他）

委) 実際の星を見る活動は重要だが、天体観望会、天文クラブのほかにあるか。

指) 今年度は、多摩北部広域子ども体験塾で天の川観望ツアーを実施した。

委) 自前のコンテンツはとても大事だが、映像制作にどれくらいの時間がかかるか。

指) 2カ月くらいかかるが、編集制作専用のミニドーム（直径3m）があり便利である。

指) 研究交流グループ・自然チームの報告

- 日常生活で「見ていないもの」「気にしていないこと」を意識することで「生活の中の発見」を導くよう努めている
- 生活・地域をテーマに、「食べ物」が「生き物」であることを意識するプログラムを企画し、食用の魚・肉の解剖や、東大農場と連携した農業体験と収穫の連続体験講座等を実施しており、利用者に好評である
- ベーシックなテーマを楽しく学べるよう、地学系では宝石や貴金属から鉱物を学ぶプログラムに取り組んでいる
- 地域の魅力に気づき、理解し再評価することを目標に、多摩六都圏域の多様な自然環境を観察するプログラムを組み「地域を伝えること」を意識している
- 科学館の情報発信力や集客力は、連携・協働の相手から期待されているメリットである
- 連携先は、地域の市民グループ、地元企業、高校の科学系クラブ等多岐にわたる
- 雑木林再生プロジェクトで、木を伐り草地から自然林を保護育成するという、長期的な事業をボランティアと共に取り組んでいる

委) 調査研究の専門家としての自覚ができて来ているが、利用者の声はどうか。

指) スタッフは積極的に専門的な研修に参加している。利用者のアンケートには、具体的に学んだ事物をつづったものも見られ、驚きや発見が実感として生じている。

委) 圏域の河川の調査活動の結果を展示にフィードバックしているか。

指) 今は生体の展示に留まっているが、今後取り組んでいきたい。

指) 研究交流グループ・サイエンスチームの報告

- 夏季特別企画展（感覚の迷宮）が主要事業であったが、話題性や集客面は良好であった。他にない独創的な企画の展示となり、チーム全員が企画から展示・キャラクターの制作、解説、オペレーションまでの役割を担った
- ブラインドウォーク（目隠し歩行）のワークショップでは、振返りシートを活用して体

験を自分のものにできるよう図った

- しくみラボの工作等を通して、ジュニアボランティアの活動が効果を上げている
- 「究極のスライムづくり」等スタッフの個性を生かしたプログラムもある一方、地元企業の協力で人気の教室もある（シチズン時計株式会社による時計作り教室）

委) チームの中でアイデアを出しているのか/他の企業協力の例はあるか。

指) グローブライド株式会社、アジレントテクノロジー株式会社、NTT研究所等がある。

委) いろいろな科学分野についてマトリックスを描き、自分達に足りないところを検討したか。

指) 化学の分野が不足気味と認識しており、しくみラボのプログラムで補うようにしている。

指) 研究交流グループリーダーの報告

- ボランティアは活況で、平成27年度に29人（ジュニア14人、大人15人）が加わり総勢145人となっており、毎日どこかで誰かが活動している
- ジュニアボランティアの「つくる部」は市民感謝デー（3月6日）に成果を発表する予定である
- ボランティア研修会（長瀬の地質巡検、科博新展示の見学）にも多くの参加者があった
- 中学生の職場体験は圏域9校から受入れ、生徒の熱意を実感している。高校生の科学部や大学生による館内ワークショップの実施や、大学生の博物館実習等、多岐にわたる学校連携事業も改善し継続している
- 教員向け研修は、東京学芸大学と連携して行う実践講座（主に圏域小中学校の教員を対象）と、東京都教職員センターと共同で実施している夏季研修（都内の小学校教員向け）の2つの研修プログラムを毎年実施しており、スタッフも講師を担当するようになった
- 展示や教材の貸出しをいくつかの学校、博物館と実施している。西東京市立本町小学校（ふりこ・堆積実験）、埼玉県立川の博物館（観察ブース出展）、千葉市科学館（魚展）、青森県立三沢航空科学館（感覚の迷宮展）等。
- 市民の科学リテラシー醸成を図る事業として、地域の研究機関や協力協定先と連携し、「サイエンスカフェ」や「サイエンスレクチャー」を毎月開催している。

委) 市民、教員、地域への貢献が顕著である。ぜひ連携の成果（効果）をまとめ、組合議員に説明した方がいい。

委) 平成25年度から実施しているグルメフェスティバルを含め、市民感謝デーの実績や効果についてもっと前面に出した方がいい。

委) 博物館実習は年1回ということで、敢えて夏休みの繁忙期に実施しているようだが、応募者に対しどのような選考をしているか。

指) 学生の専攻が科学館の活動に合致しているかどうかを書類選考しており、例年2人から7人ほどを受け入れて実施している。

指) 経営管理グループ・広報・地域連携チームの報告

- 広報、マーケティング（調査・顧客開発）、外部連携、ボランティア活動のコーディネートを担当している。広報は、デザイナーがおり機動力のあるフライヤーの作成等ができること、調査・顧客開発では年2千件の利用者データと友の会会員1千人以上の顧客データを集めて分析していること、ボランティアと担当との信頼関係が強固にあること——が強みとなっている
- 今年度は特に広報に投資をしており、ロクトニュースの紙面拡充、新聞折込、コアな利

利用者向けの毎月の催しのお知らせ、ホームページやソーシャルネットワークの活用等、セグメントに合わせてきめ細かくPRを行っている

- 地域拠点事業（地域連携）は、中核事業に包摂されており、研究交流グループやアテンドグループとは常に協力して実施している
- 遺跡展では構成5市と、鉄道展では西武鉄道株式会社との緊密な連携が図れた
- 市民感謝デー&グルメフェスティバル、多摩北部広域子ども体験塾の企画運営、入学祝招待券配布等、構成5市の企画担当、産業振興担当、教育委員会等との連携・協働で実施している

委) 多摩北部広域子ども体験塾の天の川観望ツアーはどこで実施したか

指) 山梨県清里のキープ協会をベースに実施した

委) 市民感謝デーの利用者はどのくらいあったか

指) 例年2,000人以上あり、昨年度は2,800人が来館した。

指) アテンドグループの報告

- 発券・利用案内のルーティンにとどまらず、エントランスホールのデコレーションも含めお客様の快適性（アメニティー）の向上・改善に努力している。
- その様な観点で企画したのが、幼児と一緒に観覧できる「おもいやりプラネタリウム」で、障がい者の方からも予約が入るなど認知されつつある

委) 利用者のマナーでトラブルになることはあるか。

指) 公共の場なので、節度をもつていただくようにしている。どのような事態でもスタッフのモチベーションを下げないように努めている。

指) 経営管理グループ・経営管理担当の報告

- 今年度は過去最高水準の集客を維持しており、目標値を上方修正した（22万超）。
- 春休み、GW、夏休み、シルバーウィーク、冬休みの集客のヤマに対し、直後の6月、9月、2月はタニになっているので、集客を落とさないよう底上げするために、今年度は予め予算を計上しこの時期に小規模の企画展（遺跡展、鉄道展）に当てている。
- 基盤整備に投資をしていく必要があるため、次期の企画展（春期）では常設展示に活用できるアイテムの導入を考えている
- 広報への投資については、新聞折込の費用対効果が出ていると考えている
- 社員教育は、乃村工芸社のネット教育プログラムを活用している。主な講座は、情報セキュリティセミナー、マイナンバーセミナー、リスク予防セミナー（著作権）等である

委) 乃村工芸社の類似施設との交流はないのか。

指) 埼玉県立川の博物館、青森県立三沢航空科学館とは相互に研修交流を行っている。東京都水道歴史館へ科学館特別研究員の講師派遣等も実施した。

委) 他館から当科学館へもっとプラスになることを考慮した方がいい。

組) 組合からの報告

- 駐車場整備工事が7月に完了し、順調に運営されている。（現地見学は、会議が延びて暗くなったため次回の委員会に延期）
- 市民モニターの活動状況と意見交換会の実施（12月1日、6日）。本日の委員会も市民モニターが傍聴している。

### 3 平成 28 年度の事業計画について

乃村工藝社統括マネージャーより説明

- 事業計画の活動項目をすべて中核事業と地域拠点事業のマトリクス上にプロットし、事業の位置を明確にする
- 中核事業と地域拠点事業の相乗効果を意識的に作る
- 科学リテラシーと地域リテラシーが相互に高めあうことができるよう図る
- あるべき地域像の創造と共有、発信が可能な多様な学びの場づくりを目指す
- 人と自然、文化の地域交流拠点が科学館にできることで、コミュニケーションプラットフォーム機能が十分に働き、第 2 次基本計画の目標である「地域づくり」に貢献する

委) 今後、科学館のキャパシティを考えると、土日や繁忙期に利用者数を集中させず、平日等の集客策を更に検討する必要がある。

### 4 その他

(特になし)